

# 学 園 報

No.34

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>  
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>  
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

## ●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444  
 TEL/076-436-5139  
 FAX/076-436-5444

## Next Fifty! 2014年春



理事長  
**金岡 祐一**

**理事長**：2013年、学園創立50周年記念行事を総力をあげて実施し、本学園の富山県教育界への比類ない貢献を、県民の皆様にご理解いただきました。この間、教職員皆様の御尽力に、理事長として厚く御礼申し上げます。富山県における教育界の今後の50年に向け、そして世界・人間社会の「将来の希望を語る教育」の使命達成に向け、あらためて自信と誇りをもって我が学園の前進を宣言しようではありませんか。

100%。公務員採用試験に10名合格です。「経営情報学科」は日本ビジネス実務学会中部ブロックの学生プレゼンテーションで優秀賞と奨励賞。「福祉学科」は中学・高校への出前講座が好評。子ども育成学部への編入学も定着し、学生支援GP活動もあり、全国的志願者減の逆風の中、健闘中です。

**富山国際大学**：中島学長を中心にアクションプラン（2014-16）を策定。より国際化を進めるため、海外留学支援制度も強化する予定です。今年はJICA観光事業を5ヶ国10名が研修し、一般離職者対象訓練コース〔観光ビジネス科〕も実施。「現代社会学部」は教育力向上に注力し、公務員就職支援講座やFD委員会を設置しました。一方、「子ども育成学部」は入学・収容定員とも100%達成！専門職就職率93%、社会福祉士国家試験12名合格（全国ランキング32位）。カリキュラム改正、教育組織の強化等に努め、今や県・教育界での信頼を確保しました。

**国際大学付属高校**：倉田延邦・新校長の下、新校舎で意気盛ん。入学定員充足率100%超えは4年連続（県内私立最高）。収容定員100%超えも県内私立で唯一。新聞部全国最優秀賞（3年連続）、英語部県プレゼンコンテスト1位、バドミントン女子は全国8位、柔道春季大会団体2位等、「文武両道」の名が示す部活動の成果です。

**富山短期大学**：新体育館で初めての入学式を挙行了しました。「食物栄養学科」では栄養士実力認定試験で平均点は全国平均より1割以上高く、またNR・サプリメントアドバイザー試験では表彰者を。専攻科では学士号取得率、就職率共に100%を達成。「幼児教育学科」の保育専門職就職決定率

**短大付属みどり野幼稚園**：県内の園児数減少の中で定員確保し、桜満開下の入園式！父親の会を始め、保護者の方々の協力を得て地域に密着し、環境整備に取り組んでいます。将来計画についても学園レベルで委員会を設定。

**社会福祉法人富山国際学園福祉会・にながわ保育園**：学園がバックアップしているとして地域からの信頼を獲得し、今年も定員を上回る園児で出発。幼児教育学科、子ども育成学部からの卒業生も採用し、学園としての総合効果は成功とみる。

### CONTENTS

□Next Fifty! 2014年春	
理事長 金岡 祐一	1
□特集1 新校舎完成	2~3
『富山国際学園50年史』の発刊に寄せて	3
□特集2 新駅(願海寺)誘致に係る座談会について	4

□トピックス 平成25年度事務改善推進会議について	5
□平成26年度入試状況・平成25年度進路状況	5
□平成26年度予算概要	6~7
□学園退職者・新任者一覧	7
□学園NEWS	8

# 新校舎完成

富山短期大学は、老朽化した校舎の改築工事を行い、平成25年9月に新校舎が2棟完成しました。

東側の新館（F館）は、鉄骨造り5階建て（面積4,550.70㎡）で、主に食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻が使用する調理室・理化学実験室・講義室・研究室等が整備されています。1階は調理実習室等、2階は共用の多目的教室や合併教室等、3階はコンピュータ演習室や食品・栄養科学実験室・学科事務室等、4階は理化学実験室等、5階は研究室等が配置されています。

西側の新館（G館）は、鉄骨・鉄筋造り2階建て（面積3,017.40㎡）で、1階は学生ホール・コンビニエンスストア、保健室及び学生相談室等、2階はステージ付きの体育館が整備されています。



G館

## 講義棟

主に食物栄養学科が使用する5階建てのF館には、普通教室のほか、調理や実験実習で使用する教室が多数あります。食物栄養学科は、調理や実験実習などの授業が多いこと、専攻科食物栄養専攻では学士取得に向けて四年制大学の卒業論文に相当する特別研究を行っているため、F館には実習室や実験室などの特別教室が多いのが特徴です。



F館



調理実習室

1階のフロアには、IH調理器具も備えた2つの調理実習室があります。2つの調理実習室の間には、上履きや白衣に着替え、手の洗浄ができるように前室があり、一旦前室に入ってから調理実習室に入れるようになっています。また、教員用の調理台の上には、テレビカメラが設置されており、調理している様子がテレビモニタを通して真上から見える設備が備えられています。2階のフロアには、講義室が4つあります。そのうち、2つの講義室は可動式のパーティションで区切られており、合併教室にすることで最大250名が収容できるようになっています。すべての講義室には、プロジェクタとスクリーンが設置されており、パワーポイントなどを使った授業ができるようになっています。3階には、講義室が1つ、コンピュータ演習室があります。コンピュータ演習室には、パーソナルコンピュータが50台設置されており、情報関連の授業が行われます。その他、食品科学系の実験室が2つあり、食物栄養専攻の特別研究や食物栄養学科の卒業研究などに使用しています。官能評価室も3階にあり、食品のおいしさについて、科学的に評価できる設備も整っています。4階には、3つの理化学実験室があり、食品化学や生化学実験だけでなく、微生物も扱う食品衛生学実験の授業などが行われています。また、動物飼育室も設置され、ラットなど小動物を

1階のフロアには、IH調理器具も備えた2つの調理実習室があります。2つの調理実習室の間には、上履きや白衣に着替え、手の洗浄ができるように前室があり、一旦前室に入ってから調理実習室に入れるようになっています。また、教員用の調理台の上には、テレビカメラが設置されており、調理している様子がテレビモニタを通して真上から見える設備が備えられています。2階のフロアには、講義室が4つあります。そのうち、2つの講義室は可動式のパーティションで区切られており、合併教室にすることで最大250名が収容できるようになっています。すべての講義室には、プロジェクタとスクリーンが設置されており、パワーポイントなどを使った授業ができるようになっています。3階には、講義室が1つ、コンピュータ演習室があります。コンピュータ演習室には、パーソナルコンピュータが50台設置されており、情報関連の授業が行われます。その他、食品科学系の実験室が2つあり、食物栄養専攻の特別研究や食物栄養学科の卒業研究などに使用しています。官能評価室も3階にあり、食品のおいしさについて、科学的に評価できる設備も整っています。4階には、3つの理化学実験室があり、食品化学や生化学実験だけでなく、微生物も扱う食品衛生学実験の授業などが行われています。また、動物飼育室も設置され、ラットなど小動物を

用いた栄養評価実験などでもできるようになっています。栄養指導の実習を行うための栄養指導室や臨床栄養の実習を行うための臨床栄養実習室なども4階にあります。栄養指導室には、栄養指導がしやすいよう小部屋になっており、栄養指導用のフードモデルや栄養管理用の特殊な食品なども陳列されています。臨床栄養実習室には、体脂肪計、身長計、血圧計など、栄養状態を評価するための基本的な測定機器が設置されています。また、糖尿病教室などを想定して、実際に調理しながら栄養指導ができるように、キッチンも備えられています。5階には、主に専攻科の学生が使用する2つの講義室と教員の研究室があります。研究室は、専攻科の特別研究や卒業研究の指導などにも使われます。教員研究室は、1階と4階にも2部屋ずつあります。トイレは、各階にあり、1階にバリアフリーのトイレが設置されています。また、女性用のトイレには、お化粧直しができるように、ちょっとしたパウダーコーナーが設けられています。旧館のトイレから、大きくグレードアップしたトイレは、女子学生達に好評です。2階と4階には、小さいながらもラウンジが設置されています。F館の2階は、G館の2階と渡り廊下でつながっています。体育の授業だけでなく、入学式や卒業式など多目的ホール（体育館）で行われる行事の際、移動するのに大変便利になっています。

F館建設中は、仮設の調理室での実習など、学生には少し窮屈な思いをさせていました。充実した新しい施設で、しっかりと学んで欲しいと教職員一同願っています。

## 待望の新体育館・学生ホールの完成

G館は、1階部分が学生ホール、コンビニエンスストア、保健室、学生相談室などがあり、ロッカールームやシャワールームなど学生への厚生施設などから構成されています。学生ホールは363席を有しており、大学生や短大生、そして付属高校生、さらには付属みどり野幼稚園児の利用もあり、呉羽キャンパス全体の憩いの場となっています。食堂や売店としての機能だけでなく、友人同士の話りの場や、クラブやサークルの打ち合わせの場として、放



学生ホール

課後であっても多くの学生の姿で賑わっています。

保健室は、A館から移動となりました。学生が気軽に立ち寄れる場として環境が整えられています。また、学

生相談室では、相談者の秘密を厳守し、カウンセラーに安心して話をするのできる環境が整っています。

ロッカールームの中には、シャールームが完備されており、クラブ・サークル活動で流した汗をきれいに流し、爽やかな気持ちで帰路につくことができます。

学内のコンビニエンスストア（正式名称：ポプラ 富山国際学園店）では、おにぎりやサンドイッチといった軽食、ちょっと口が寂しいときに必要なお菓子類、さらには若者を対象にしたファッション雑誌など豊富な品ぞろえが学生の人気を集めています。さらに、就職活動に必須である本学指定の履歴書も販売しています。朝は8時半から営業しており、授業前に立ち寄る学生の姿も多くみられます。

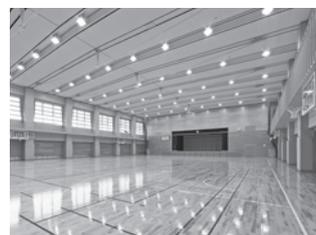
食堂では、ラーメンやうどん、カレーライスといった定番メニューやシェフおすすめランチ、ヘルシーランチやカ

ラフルランチなど、学生のニーズに合わせた豊富なメニューが好評です。また、トッピングもあり、サラダやサイドメニューも多く揃っています。食券の販売機の前では今日は何を食べようかと思慮している学生や教職員がよく見られます。

2階部分はステージ付きの体育館となっており、体育の授業だけでなく、放課後のクラブ・サークルの活動場所として使われています。体育館の工事中は練習をする環境が無く、不便な思いをさせていただきましたが、新しくそして安全な環境で運動に取り組み、課外活動がより充実し活性化していくことを望んでいます。

また、学生会の一大イベントである大学祭では、昨年の第50回大学祭において、新体育館で初のライブを開催しました。会場は熱気と興奮の渦に包まれ、大盛況のうちに幕を閉じました。

50周年という節目の年に竣工となった学生ホール、そして新体育館が学生たちの活動の場として利用されるよう、さらに安全で安心な環境を整えていきたいと思っています。



体育館

## 『富山国際学園50年史』の発刊に寄せて

記念誌部会長 安達 哲夫

平成24年5月、理事長を会長とする「学校法人富山国際学園創立50周年記念事業実施委員会」が発足し、その下に「記念誌部会」が設けられました。記念誌部会の第1回会合は6月22日に開催され、平成26年2月28日の第17回会合をもって終了しました。

記念誌部会では、まず、記念誌作成の趣旨・目的を次の3点としました。①学園の今後の発展のための指針・資料作り、②地域社会における学園の存在意義・役割の確認と対外PR、③学園を築き、またこれまで支えて頂いた先人・地域関係者への御礼。

この趣旨・目的を踏まえて、対外PRに重点を置き、写真を中心に構成した縮刷版（A4版、48頁）と、資料としての価値を持たせた保存版（B5版、360頁）の2種類の『記念誌』を制作することになりました。

8月末に入札を行い、印刷・製本を北日本印刷(株)、編集協力を(有)青青編集に依頼することが決まりました。9月4日の第3回会合からは、北日本印刷の駒見好弘氏と青青編集の山井武氏が参加して、以後緊密な連絡を取りながら作業を進めました。

最初の仕事は、詳細な「年表」を作ることと、縮刷版・保存版の構成・目次を固めることでした。年表作成と構

成・目次を固めるまでに半年程かかりました、その後は執筆分担に基づいて、ほぼスケジュール通りに作業は進められました。

縮刷版では、いかに「見てもらえる内容」にするかが、最も頭を悩ました点で、表紙や「写真で見る50年」のデザインやレイアウトは、最後まで修正の手が入られました。保存版では、資料編の名簿作成に多くの時間を費やしました。

縮刷版の完成が近づいた平成25年8月29日、保存版に掲載するための記念座談会を行いました。金岡理事長、中島学長、中田校長、青山園長、小芝短大副学長（司会）の5名で、今日の学園の教育の特色・特長、その淵源、最後に将来展望を語って頂きました。この座談会が、保存版原稿を執筆する上で大きな指針となりました。

『富山国際学園創立50周年記念誌 縮刷版』は、平成25年10月17日の記念式典に合わせて発刊されました。『富山国際学園50年史』は、平成26年3月26日の学園役員会に合わせて発刊されました。

2年近くに亘って記念誌の作成に係られた記念誌部会メンバー並びに関係者の皆様へ、心から御礼申し上げます。

# 新駅(願海寺)誘致に係る座談会について

富山国際学園「新駅設置推進協議会」

## 1. はじめに

地域の皆さんと富山国際学園とが、並行在来線の願海寺地区への新駅誘致について意見を交換し、理解を深めるための座談会が、平成26年2月24日(月)富山短期大学で開催されました。



新駅は学園にとって「永年の悲願」であり、願海寺地区に在来線新駅が設置されれば、通学通勤の利便が大幅に向上し、本学園呉羽キャンパスのさらなる発展に確実に繋がることとなります。

座談会には、新駅(願海寺)期成同盟会役員、地元自治会代表者と大学・短大・付属高校の学生・生徒及び教職員が参加し、また、田畑衆議院議員をはじめ県・市議会議員の方々にも出席いただき、総勢40名ほどになりました。

## 2. 開会挨拶

冒頭に金岡理事長は挨拶で、「今回の座談会は、誘致活動にとって、地域の皆様と本学園の学生生徒を交え、積極的な希望を掲げながらお互いの意思疎通を図り、今後の市民エネルギーを集めることができる意義深い場であり、今後とも地域の皆様と期成同盟会の一員として運動を進め、学園自らも熱意を各方面に訴えていく所存です。」と述べられました。また、田畑衆議院議員からは、「本日参加の議員と共にスクラムを組み皆様の声を吸い上げ行政に届けたい。少子高齢化の中、交通弱者の移動権をどう確保していくか、この新駅の問題に取り組み、これからも公共交通の充実に力を入れていきたい。」との挨拶がありました。

## 3. 座談会

これまでの新駅設置期成同盟会の活動経緯や並行在来線第3セクター新会社「あいの風とやま鉄道」の設立等の説明の後、地元代表



や各議員の方々で20名、呉羽キャンパスに通う学生・生徒・教職員(富山国際大学子ども育成学部・富山短期大学・富山国際大学付属高等学校)20名にて行った座談会では、まず、地元の方から本学の学生・生徒に対し、現在の通学方法で不便に感じていることについて質問がありました。

JR利用の学生・生徒からは「呉羽駅や小杉駅下車後のバス乗換は接続が不便で、徒歩だと40分程度かかってしまう。」、バス通学の学生からは「積雪時は所要時間が読めず、渋滞で授業や試験に遅れることがしばしばあり、運賃も高く親に負担をかけてしまう。」、スクールバス利用の生徒からは「土日の部活動時にはスクールバスの運行が無く、呉羽駅から徒歩で通学しており大変不便である。」、自家用車通学の学生は「雪道の運転が怖い、親に車を購入してもらったが、維持費も含め経済的負担が大きい」等々の意見が出されました。

また新駅を利用した通学については、「今は自家用車通学だが、運賃が安くなるので鉄道に切り替えたい。」「鉄道なら時間短縮になり、勉強時間が増える。」「石川県への学生流出が減り、逆に石川県からの入学者増につながり地元の活性化にもなるのではないか。」「新駅開業の際には国際高校のプラスバンド部・バトントワリング部・みどり幼稚園で盛大にオープニングセレモニーを行えば、地元も盛り上がると思う。」等、地域の方からは「地元として協力を惜しまない」「地域の発展に繋がる」「鉄道は高齢者や子・孫が気軽に利用でき環境に優しい」などの活発な意見が出されました。また、議員の先生方からも、「あいの風富山鉄道は通学電車として生き残っていく必要があり、新駅は経営にもプラスになると考えている。」「実現に向け地元・学園で今以上に新駅の必要性を訴えてほしい。」「地元・学園・議員でスクラムを組み、取り組んでいきたい。」と、それぞれの立場で貴重な御意見を頂き、大変有意義な座談会となりました。

## 4. 閉会挨拶

最後に山本常務理事(期成同盟会副会長)から、「本日の座談会の成果を、今後の同盟会の活動に役立てたいと考えています。新駅設置のハードルは高く、道のりは長いですが、期成同盟会としては新駅の夢の実現に向けて、息切れすることなく息長く活動を続けてまいりたい。学園としても学生・生徒・教職員を対象とした新駅利用アンケートを調査項目精査のうえ実施し、また独自に様々な方面へアプローチをしていきたいと考えています。」と挨拶がありました。

この座談会の成果が今後の誘致活動に活かされ、一日も早く「新駅の夢」が実現するように頑張っていきます。

今後とも教職員の皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

## 平成25年度事務改善推進会議について

平成25年度事務改善推進会議では、事務職員研修、事務決裁規程・経理規程の見直し、設備・備品等の有効活用など10項目について検討しました。今回は、事務職員研修及び事務決裁規程・経理規程の見直しについて紹介します。

富山国際学園事務職員研修会は平成25年度に2回実施しました。

第1回は、学校事務職員相互の資質、能力の向上を図ることを目的に、平成25年8月20日（火）に実施しました。富山国際大学参事水間英光氏を講師として「「仕事する」とはどういうことか」をテーマに、講演、グループディスカッション、グループ代表者の発表が行われました。

第2回は、ビジネスマナーの重要性を理解し、周囲から受け入れられる人材を目指すことを目的に、平成25年12月27日（金）に実施しました。（株）理想経営キャリアカウンセラー菊恵美氏を講師に、ビジネスマナーの基本、電話対応、来客対応など基本的なことについてロールプレイング形式で行われました。

研修会に参加した職員からは、報告・連絡・相談の重要

性、電話対応・来客対応等様々なマナーの基本的なことが再確認でき、非常に参考になったという意見等が多数ありました。

職員一人ひとりが富山国際学園の代表という意識で研修内容を実践されることを期待します。

事務決裁規程・経理規程については、事務の迅速化、簡素化の観点から①公開講座、教育実習等に関することの決裁権限を学長から担当部長へ移譲、②1件3万円未満の物品の購入等の場合の見積書省略、③校外実習等の実施何と支出負担行為の同時回議、④事務部へ回議する事案と省略できる事案の明確化等について見直しを行いました。このことにより、より迅速な事務処理が可能になることを期待しております。

平成26年度事務改善推進会議においても、25年度に引き続き、職員等の資質向上を目的とした研修の実施、事務事業の継続的な見直しによる事務の迅速化、効率化、簡素化により一層取り組んでまいります。

### 平成26年度入試状況

#### 大学

(平成26年4月4日現在) (単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	196	195	193	110
子ども育成	80	248	246	188	101
合計	200	444	441	381	211

※現代社会学部の合格者数には、第二志望合格者11名を含む。

#### 短大

(平成26年4月4日現在) (単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	105	105	104	80
幼児教育	80	148	148	123	83
経営情報	100	132	132	132	102
福祉	70	55	55	55	44
食物栄養専攻	15	23	23	18	18
合計	345	463	463	432	327

※食物栄養学科、経営情報学科、福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む。

#### 高校

(平成26年4月8日現在) (単位:人)

コース・クラス	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	207	206	31
特進コース	1クラス	518	517	22
フロンティアコース	6クラス	771	765	210
合計	8クラス	1496	1488	263

### 平成25年度進路状況

(平成26年5月1日現在) (単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	128	105	105	100.0	8
子ども育成	76	69	69	100.0	4
合計	204	174	174	100.0	12

(平成26年5月1日現在) (単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	86	81	81	100.0	2
幼児教育	87	84	84	100.0	0
経営情報	111	107	105	98.1	2
福祉	50	46	46	100.0	2
合計	334	318	316	99.4	6
食物栄養専攻	17	17	17	100.0	0

(平成26年5月9日現在) (単位:人)

大学	入学 者	合格 者	短期大学	入学 者	合格 者	その他	入学 者等	合格 者	卒業 生
富山国際大学	13	25	富山短期大学	33	35	専修各種学校	48	54	218
国公立	9	11	公立短大	0	0	就職	36		
他の私立大学	55	79	他の私立短大	12	12	その他	12		
計	77	115	計	45	47	計	96		

### 平成26年度新入園児童

#### 幼稚園

(平成26年4月20日現在) (単位:人)

	新入園児	在園児	計	男	女
3歳児	31	—	31	15	16
4歳児	2	29	31	16	15
5歳児	1	42	43	23	20
合計	34	71	105(定員84名)	54	51

### 平成25年度卒園児童

(平成26年3月31日現在) (単位:人)

	男	女	合計
5歳児	23	14	37

富山市12校、射水市6校にそれぞれ就学

### 平成26年度 予算概要

平成26年度の事業計画及び予算は、去る3月26日の評議員会・理事会において承認されました。

新年度予算は、新たに策定した「経営改善5ヶ年計画」(26年度から30年度)に沿って作成してあります。

各校ごとの主な事業計画及び予算の特徴は以下のとおりです。

#### 大学

子ども育成学部が教員採用試験実績等の教育成果により安定的に定員を確保し、現代社会学部の定員割れも僅かに留まったため、4年振りで入学定員を確保できることとなり、36百万円余りの黒字を見込めることとなりました。

主な事業としては、平成26年度から3年間を計画期間とする「アクションプラン」に基づき、入口である入学定員確保対策の強化、出口であるキャリア支援体制と就職対策の強化に取り組み、国際交流や地域との連携・交流活動の強化にも努めていく予定です。

#### 短大

短大は、これまで確実に入学定員を確保してきましたが、近年、志願者が減少傾向にあり、特に福祉学科の大幅な定員割れにより、平成26年度は入学定員を割ることとな

りました。今後、募集広報活動等の検証により定員確保に努める必要があります。収支状況は、短大校舎改築1期工事が完了したことにより12百万円余りの黒字予算となっています。

主な事業としては、定員確保対策、奨学金の充実、授業評価及び卒業生アンケートやGPA(成績評価値)による教育活動や、キャリアデザイン教育の充実などです。

#### 高校

新校舎完成やスクールバス充実等により生徒数が急増し56百万円余りの黒字予算となりました。しかし、大幅な入学定員超過による県補助金減額のペナルティに注意が必要です。また、生徒数増に伴う教員の大量採用により人件費が増嵩しており、今後、生徒数の平準化にあわせて人件費の抑制に努める必要があります。

主な事業としては、ICT教育や生徒の安全確保のためのインフラ整備、生徒数増に伴う新校舎の教育環境の追加整備などです。

#### 幼稚園

預かり保育に伴う人件費増や園舎耐震診断調査費などにより15百万円余りの赤字予算となりました。県内の他の幼稚園が園児募集に苦戦している中で、本園は安定的に定員を確保しているものの赤字には至りません。教育実習園としての事情があるものの、今後の財務改善策が求められます。

主な事業としては、預かり保育充実、園舎耐震診断、幼稚園将来構想の検討などです。

### 資金収支予算書

平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで (単位:千円)

	平成26年度予算額	平成25年度当初予算額	差異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,870,909	1,859,848	11,061
	手数料収入	35,726	32,774	2,952
	寄付金収入	18,938	2,105	16,833
	補助金収入	644,364	613,460	30,904
	資産運用収入	15,464	17,690	-2,226
	資産売却収入	1	1	0
	事業収入	76,652	78,812	-2,160
	雑収入	160,080	72,697	87,383
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	465,991	469,315	-3,324
	その他の収入	170,557	990,737	-820,180
	資金収入調整勘定	-644,375	-557,375	-87,000
	前年度繰越支払資金	798,000	840,000	-42,000
	収入の部合計	3,612,307	4,420,064	-807,757
支出の部	人件費支出	1,745,069	1,642,933	102,136
	教育研究経費支出	536,187	549,354	-13,167
	管理経費支出	136,500	162,439	-25,939
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	240	-240
	施設関係支出	7,583	768,016	-760,433
	設備関係支出	44,844	162,764	-117,920
	資産運用支出	331,124	277,318	53,806
	その他の支出	130,800	173,000	-42,200
	[予備費]	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	-215,300	-118,500	-96,800
	次年度繰越支払資金	880,000	787,000	93,000
	支出の部合計	3,612,307	4,420,064	-807,757

### 消費収支予算書

平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで (単位:千円)

	平成26年度予算額	平成25年度当初予算額	差異	
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,870,909	1,859,848	11,061
	手数料	35,726	32,774	2,952
	寄付金	20,640	3,807	16,833
	補助金	644,364	613,460	30,904
	資産運用収入	15,464	17,690	-2,226
	資産売却差額	1	1	0
	事業収入	76,652	78,812	-2,160
	雑収入	160,080	72,697	87,383
	帰属収入合計	2,823,836	2,679,089	144,747
	基本金組入額	-20,646	-104,220	83,574
消費収入の部合計	2,803,190	2,574,869	228,321	
消費支出の部	人件費	1,750,069	1,647,433	102,636
	教育研究経費	834,587	808,854	25,733
	管理経費	138,700	164,339	-25,639
	借入金等利息	0	0	0
	資産処分差額	15,500	15,500	0
	[予備費]	15,500	15,500	0
	消費支出の部合計	2,754,356	2,651,626	102,730
当年度消費収入支出超過額	48,834	-76,757	125,591	
前年度繰越消費支出超過額	-3,160,432	-1,036,964	-2,123,468	
翌年度繰越消費支出超過額	-3,111,598	-1,113,721	-1,997,877	

## 学園全体

**消費収支予算【1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの】**において、消費収入の部では帰属収入合計が2,824百万円（対前年度当初予算比145百万円増・5.4%増）、これから基本金組入額を差し引いた消費収入合計が2,803百万円（同228百万円増・8.9%増）となっています。消費支出の部では、消費支出合計が2,754百万円（同103百万円増・3.9%増）となり、この結果、消費収入超過額（いわゆる黒字額）は49百万円で、平成16年度以来の黒字予算となりました。また、基本金組入前の帰属収支差額では、69百万円余りの黒字となっています。

**資金収支予算【1会計年度の全ての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの】**において、平成26年度の諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入、平成26年度入学生の前受金、平成25年度末の未収入金の見込額等が計上されています。

一方、支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、施設・設備関係等が計上されています。その結果、平成26年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の資金として、3,612百万円（同808百万円減・18.3%減）が見込まれています。

**学園の財政状況**は、昨年度で呉羽キャンパスでの一連の施設改築（高校校舎改築及び短大校舎改築Ⅰ期工事など）が一段落しましたが、これまでの大規模投資により自己資金は大幅に減少し、学園の財務基盤は決して楽観できる状況にありません。今後も、幼稚園舎耐震化や短大校舎Ⅱ期工事等に多額の資金需要があるため、消費収支での黒字化は必須であり、これまで以上に経費節減や定員確保等の努力を続け、堅実な収支見通しを持って計画的な施設整備を進める必要があります。

本学園は昨年度創立50周年を迎え、新年度は、学園が「新たな50年」へ第一歩を踏み出す、言わば学園の「新世紀元年」ともいうべき年です。

この半世紀の間に、学園は4万人を超える有為な人材を地域社会に送り出し、「地域に根差した学園」として、学

## 平成26年度部門別消費収支予算書

(単位:千円)

科目	部門	法人	大学	短大	高校	幼稚園	総額
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	763,954	676,618	402,740	27,597	1,870,909
	手数料	0	12,595	15,106	7,990	35	35,726
	寄付金	2	18,934	3	1,001	700	20,640
	補助金	0	238,767	133,985	253,240	18,372	644,364
	資産運用収入	13,020	1,100	800	544	0	15,464
	資産売却差額	0	0	1	0	0	1
	事業収入	0	16,459	25,397	28,000	6,796	76,652
	雑収入	200	54,880	80,500	24,500	0	160,080
	帰属収入合計(A)	13,222	1,106,689	932,410	718,015	53,500	2,823,836
	消費支出の部	人件費	35,309	656,260	582,246	434,910	41,344
教育研究経費		0	338,914	280,218	194,374	21,081	834,587
管理経費		18,085	53,345	46,012	15,568	5,690	138,700
借入金等利息		0	0	0	0	0	0
資産処分差額		0	2,500	2,500	10,500	0	15,500
予備費		2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500
消費支出合計(B)		55,394	1,056,019	915,976	658,352	68,615	2,754,356
基本金組入額	第1号基本金	0	13,749	3,499	3,388	0	20,636
	第2号基本金	0	0	0	0	0	0
	第3号基本金	10	0	0	0	0	10
	第4号基本金	0	0	0	0	0	0
基本金組入額合計(C)	10	13,749	3,499	3,388	0	20,646	
当年度消費支出超過額(D)=(A)-(B)-(C)	△42,182	36,921	12,935	56,275	△15,115	48,834	
前年度繰越消費支出超過額(E)	—	—	—	—	—	△3,160,432	
翌年度繰越消費支出超過額(D)+(E)	—	—	—	—	—	△3,111,598	
【参考】							
当年度帰属収支差額(A)-(B)	△42,172	50,670	16,434	59,663	△15,115	69,480	

園の知見や教育成果を地域に還元し、社会の発展に貢献する使命を果たしてきました。

「新たな50年」に向けて、教職員一丸となって今後ともこの使命を果たすべく、学園の更なる発展を目指していかねばなりません。このためには教育内容の充実や施設設備等教育環境の整備が不可欠であり、これを支えるのが確かな財政基盤です。

学生生徒の安定確保や積極的な外部資金の獲得、予算の適正・効率的執行、経費節減になお一層の努力をお願いします。

### ◆退職者一覧(平成26年3月31日付)

<大学> 成澤 義親(現代社会学部 教授)  
 浜松 誠二(現代社会学部 教授)  
 福島 清紀(地域交流センター 教授)  
 開 仁志(子ども育成学部 准教授)  
 <短大> 原田 澄子(食物栄養学科 教授)  
 大西 紀夫(経営情報学科 教授)  
 武岡真知子(幼児教育学科 教授)  
 河原 佳苗(経営情報学科 講師)  
 (寺本)  
 <高校> 中田 正幸(校長)  
 山本 律子(教諭)  
 五十嵐 努(副主幹)

### ◆新任者一覧(平成26年4月1日付)

<大学> 佐藤 綾子(現代社会学部 准教授)  
 小林 曜子(子ども育成学部 准教授)  
 竹田 好美(子ども育成学部 講師)  
 <短大> 飯田 聡(幼児教育学科 教授)  
 赤川 雅和(幼児教育学科 教授)  
 亀澤 祐一(経営情報学科 教授)  
 木元 清明(経営情報学科 准教授)  
 廣田 恵巳(食物栄養学科 実習助手兼主事)  
 <高校> 藤田 栄(教頭)  
 富田 卓代(教諭)  
 嵯峨 和子(教諭)

## 富山国際大学

## 『富山国際大学アクションプラン2014-2016』を策定しました

建学の精神・大学の基本理念に基づき、大学を取り巻く環境の変化、社会が求める新たな役割を踏まえて、その使命を果たすことを目指し、2014年度から2016年度までの3年間の具体的行動計画（アクションプラン）を定めました。アクションプランでは、「指針1. 学生の成長を保証する教育の実践」、「指針2. 国際性に富み、地域発展に貢献できる人材育成と知の創造・活用」、「指針3. 活気が溢れ、個性を伸ばせる学生生活への支援やキャリア形成」、「指針4. ブランディングと情報発信の強化と多様な学生受入れの推進」、「指針5. 教育力・研究力の強化と健全な大学運営」の5つの行動指針を掲げました。学生の人間性・専門性・社会性を向上させるとともに、学生の主体的学習を増進する授業改革や個別指導・学習支援の実施、グローバルな教育・研究、地域の教育・福祉・文化の向上や地域の活性化に貢献する教育・研究や事業を推進することなど49項目の計画を定めています。富山国際学園は、昨年創立50周年を迎えましたが、今後益々地域に根ざした総合学園であるよう大学・短大・高校・幼稚園全体で新たな50年に向けて学園を築き上げていきます。

## 富山短期大学

## プラハにて(チェコ)



本学幼児教育学科2年生の横田ほの華さんは、2012年10月から2013年6月までチェコ・プラハ芸術大学舞踊学科に留学し、クラシックバレエ、モダンダンス、タップダンス、パントマイムなどのたくさんの舞踊に励まれました。海外での生活は、不安や期待が入り混じる毎日でしたが、このプラハで得た経験が、自信や誇りにつながっているそうです。留学というチャンスを与えてくださった先生、家族、そして友人からのサポートへの感謝を忘れずに今も練習に取り組まれています。そして横田さんは2014年5月に再びプラハの舞台上で公演を行います。公演に向けて横田さんは、「演じる役をよく考え、喜びを持って、たくさんの方に感謝し、公演が成功につながるよう努めていきたい」と抱負を述べられました。

今後の横田さんのご活躍を教職員一同応援しています。

## 富山国際大学附属高等学校

## 新たな「ファミリー」を迎えて

4月8日(火)に入学式を挙行了しました。私学に集う者は絆の強い「ファミリー」のようなものですが、元気一杯の新入生263名が新たに「国際ファミリー」に加わったのです。

平成26年度入試では、過去10年間で2番目に多い受験生が本校を志願しました。また、4年連続で定員を確保することができたのは、県内の私立高校では本校のみです。

本年度は、1年生全員にipadを持たせて、より一層のICT教育を推進します。また、従来の「国際」と「英語」をキーワードにした本校の特色をさらに進化させ、グローバル人材の育成に努めることで入学者の期待に応えるように、職員一同が誓いを新たにしています。



## 富山短期大学附属みどり幼稚園

## 楽しかった親子交流会



4月12日(土)に、幼稚園では親子交流会を開催し、家族そろって登園して、各クラスで自己紹介をしたり、ゲームをしたりして、家族ぐるみで交流をしました。

また、この日は、願海寺・野々上地区の春祭りの日でもあり、獅子舞が幼稚園に訪れて、桜の下で勇壮な舞を披露していただきました。獅子舞保存会には、幼稚園の子どもたちのお父さんや幼稚園を卒園した人たちもたくさん参加しています。獅子の中に入れてもらったり、囃子に合わせて踊り出す子もいて、とても楽しいひとときを過ごすことができました。